

規制緩和後におけるバスサービスに関する研究小委員会 活動報告

研究小委員長：喜多秀行（鳥取大学）

1. 活動概要

規制緩和前後の各地の動きは地域別 WG を主体に調査をしており、その成果をとりまとめるとともに、データベースとして整備している。また、「政策・制度」、「経営・事業」、「利用者」の3つの分科会を組織し、そこでの研究成果をハンドブックとして整備する作業を行っている。現在は、その編集作業を集中的に行っており、今年度中の出版予定である。

本小委員会は昨年度において3年間の活動を終えた。これまでの活動の総括、今後の活動の継続について、平成16年11月21日（日）に開催される小委員会にて議論した。その結果、新たな体制にて引き続き調査・研究することとなった。

2. 主な活動

（1）調査活動

日本を、北海道／東北／関東／中部／関西／中国／四国／九州と8ブロックに分割し、規制緩和後のバスサービスの変遷についてデータを収集している。制度などのデータについては概ね全ての都道府県より情報提供していた。また、昨年度に引き続き、津軽地方を対象エリアとして、地域の交通政策策定するための検討支援を行った。その最終的なとりまとめを、現在行っている。

（2）研究活動

以下のように分科会を設置し、規制緩和前後での環境変化の分析や各主体が必要とする分析道具の開発を行うとともに、各分科会の主査と小委員長、副小委員長、事務局等から構成される編集委員会を設置し、ハンドブックの作成を行っている。

- ①政策・制度分科会（主査：坂本拓也（ドーコン））
- ②経営・事業分科会（主査：徳永幸之（東北大学））
- ③利用者分科会（主査：藤井 聡（東京工業大学））

（3）今後の活動計画

今年度内にハンドブックの編集作業を終えて出版する予定である。また、その出版の後には講習会を実施する予定である。また、その講習会を今年度を実施することを予定している。